

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：31302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730277

研究課題名（和文）近代日本における地域経済の発展と地方資産家の投資行動の地域間比較史

研究課題名（英文）Comparative research on regional economic developments in Modern Japan

研究代表者

白鳥 圭志（SHIRATORI KEISHI）

東北学院大学・経済学部・教授

研究者番号：70337187

研究成果の概要（和文）：

衰退地域である北海道江差、松前地域では、地方資産家は地域振興に関わろうとするが、人、資本等の移動もあり奏功しなかった。発展地域である函館市では、1920年までは地方資産家によるインフラ等への投資が地域経済の発展を加速する相乗効果を発揮した。しかし、20年代以降、地方資産家は地域経済の投資主体として地域を支えることを求められたが、このような行動を長期に採ることは出来なかった。

研究成果の概要（英文）：

This research is a comparative one among regional economies in modern Japan with the focus on the activities of regional magnets.

In the less developed regions, regional magnets tried to foster the economic development in their home. However, they failed because of outflows of accumulated capital and populations.

In developing region, the investments by the regional magnets had fostered the development of the regional economies until 1920. After 1920, the regional magnets were demanded to investment, but they weren't able to do that.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：地方名望家、地方資産家、地域経済

1. 研究開始当初の背景

拙著『両大戦間期における銀行合同政策の展開』（八潮社、2006年）で、地域金融経済の発展・衰退の地域的多様性と地方資産家の役割の重要性に気がついた。これを踏まえて、非金融面も含めて、地域経済の変動に地方資

産家が果たした役割を明確化することを考えた。

2. 研究の目的

近世近代移行期から昭和恐慌期まで複数の対照的な地域を取り上げて、地域経済の発

展や衰退への動きの中で、地方資産家が果たした役割を明確化すること。ひいては、主体行動に着目して、近代日本における地域経済発展（ないしは衰退）の比較史的特質を明らかにすること。

3. 研究の方法

地域経済の動向のほか、地方資産家が投資行動を通じて、地域経済に与えた影響を考察する。その際、性格が対照的な複数の地域を取り上げる、比較史的考察を行う。

4. 研究成果

平成 21 年度は、①北海道江差、松前地域の資産家に関する史料収集、②北海道根室地域の資産家に関する史料収集、③近世・近代移行期における松前の資産家、場所請負商人伊達林右衛門家の経営動向についての分析を行った。

①については、伊達家と関川家（本家と分家）が該当する。これらについては、一応、平成 22 年度中に史料収集を完了した。ただし、関川本家に関しては、史料点数が 10 万点を超えるために、使用可能と判断した史料のみしか収集していない。それゆえ、今後の研究の進展状況によっては、再度、史料調査と収集を行う可能性がある。分家の関連史料はすべて収集を終えた。まずは、できるだけ早い時期に、分家のほうから研究に着手するつもりである。

②については、海産物商経営のほか、牧場経営、不動産経営、銀行経営といった事業に多角化していた関係上、海産物商経営に関する史料と牧場経営史料のごく一部の収集が終わったに過ぎない。したがって、平成 22 年度以降も継続して関連史料の収集にあたるつもりである。

③については、分析がほぼ終了している。冷害による不漁のほかに、ロシアの南下に伴う蝦夷地防備の必要性が生じたことに伴い、幕命で防備に入った秋田藩に、それまで幕府や松前藩に認められていた場所請負の独占権を否定され、秋田藩への過大な上納金負担のほか、同藩関係の流通ルートが新たに形成されたため、経営の衰退を余儀なくされたことなどを明らかにした。この成果は、2010 年 5 月 15 日の経営史学会関東部会で報告した。

平成22年度、昨年度から継続して行ってきた松前の資産家（場所請負人）伊達林右衛門についての研究がほぼ完成の段階に入った。前述の学会報告で得たコメントを踏まえて、修正が終わっている。平成25年度中に学会誌への投稿を考えている。

第二に、函館の資産家、小熊幸一郎家についての研究に取り組んだ。既に発表している拙稿では、明治後期から第一次世界大戦直後の時期が主たる分析対象であった。今回は、

この拙稿を受けて、両大戦間期全体を分析対象とした。その上で、準戦時期までの小熊の事業活動の変化を、地域貢献のあり方との関係を踏まえて分析した。本研究については、平成24年10月中に地方金融史研究会で報告を行う予定である。

最後に、平成22年度には、札幌の北海道立文書館が所蔵している根室の柳田家文書の収集を進めた。昨年度は海産物商経営についての史料収集をほぼ終了させた。しかし、同家の牧場経営史料の収集が残っている。本年度は、柳田家の牧場経営史料の収集に重点をおいて収集を行った。

平成23年度には、北海道函館市の地方資産家小熊家について、1920年代から1936年までの時期を対象にして、その経営行動、地域社会への貢献といった点について検討を進めた。これを踏まえて、今年度は、まずは同家についての研究を論文化して、学会誌に投稿できる水準にまで論理的、実証的に議論を詰める作業を行った。さらに、同時並行的に、同じ北海道の中でも都市部である函館とは異なり、明治20年代以降、急速に斜陽化した江差地域の資産家＝関川家（分家）を対象にして、有価証券投資を中心に、地域経済社会とどのように関わっていたのかを検討した。本研究は、現在、学術誌の審査を受けているところであり、遅くとも来年度中には論文化できる見込みである。

史料調査面では、昨年度は北海道根室地域の資産家＝柳田家の史料収集を終わらせた。今年度は、北海道増毛町の資産家＝丸一本間家についての史料収集を進めた。同家は漁業のほか、倉庫業、廻船業など経営を多角化していたほか、北海道天塩地方に本店を含めて数箇所の店舗を展開していた。この関係で、史料の量は膨大になる。そのために、昨年度の調査の際に入手した史料目録を用いて分析対象を絞り込む作業を行った上で、史料所蔵先である北海道立文書館（札幌市）へ5～6回程度、出張した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計1件）

①白鳥圭志「近世近代移行期における場所請負人の経営行動の変化」、経営史学会関東部会報告、2010年5月20日、専修大学。

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白鳥 圭志 (SHIRATORI KEISHI)
東北学院大学・経済学部・教授
研究者番号：70337187